

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成24年度～平成26年度
5. 課題番号

2	4	7	2	0	1	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 言説の生=政治——戦時下日本語文学に関する総合的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 3 3 7 0 7	ゴミブリ ノリツグ 五味渕 典嗣	文学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

2012（平成24）年度は、研究の始発・離陸期と位置付け、アジア・太平洋戦争期の「戦争」にかかわる表現の具体的な事例と、その表現を規定する政治的・社会的・文化的な要因を明らかにすべく、以下（1）～（4）の活動を行った。

（1）日中戦争期・太平洋戦争期戦記テキスト資料の収集・調査・解析。とりわけ、アジア・太平洋戦争期の戦記テキストに決定的な影響を与えたテキストである『生きていた兵隊』（石川達三）・『麦と兵隊』（火野葦平）に注目、関係資料を収める同志社女子大学図書館と北九州市立図書館に出張、調査を行った。また、文学テキストとの比較という観点から、同時代の「国策映画」にも注目、メロドラマ的な想像力のプロパガンダへの流用について、考察した。

（2）内閣情報部・情報局、陸軍省・海軍省・外務省など情報当局による1940年代の情宣政策・プロパガンダに関する検討。戦記テキストの表現を規定する政治的背景として、当該時期の「国内思想戦」「宣伝戦」にかかわる言説に注目、関連資料の集積と検討を行った。その際、日中戦争の情報戦争としての特質に注目、各種メディアにおいて、対外的な情宣政策と日本国内の言論統制とが連動していることを確認した。

（3）国際的・学際的な研究ネットワークの構築。各種学会、研究会への参加やインターネットでの活動を通じて、関心を共有する国内外の人文社会科学の研究者と対話を重ね、本研究課題の問題意識を深化させた。

（4）研究成果の発信。9月に行われた第4回日韓国際検閲会議に参加、（1）で行った調査を踏まえ、南京作戦以後の検閲・言論統制と戦記テキストとの関わりをとりあげた研究発表を行い、その発表にもとづく論文を執筆した。また、本研究課題が対象とする時期に対する新たな視座を構築するために、戦前・戦時・戦後をまたぐテキストである川端康成『雪国』の分析を行い、その成果を論文にまとめた。